

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「インベスコ オーストラリア債券ファンド
(毎月決算型)」は、このたび、第161期の決算を行いました。

当ファンドは豪ドル建ての公社債などを実質的な主要投資対象とし、中長期的に安定した収益の確保および投資信託財産の着実な成長を図ることを目標に運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



第161期末 (2016年8月22日)	
基準価額	3,798円
純資産総額	72,663百万円
第156期～第161期	
騰落率	△1.7%
分配金(税込み)合計	360円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

＜運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法＞
右記＜お問い合わせ先＞のホームページにアクセスし、「ファンダー一覧」等から運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

交付運用報告書

第156期 (決算日 2016年3月22日)

第157期 (決算日 2016年4月20日)

第158期 (決算日 2016年5月20日)

第159期 (決算日 2016年6月20日)

第160期 (決算日 2016年7月20日)

第161期 (決算日 2016年8月22日)

作成対象期間 (2016年2月23日～2016年8月22日)

インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

＜お問い合わせ先＞

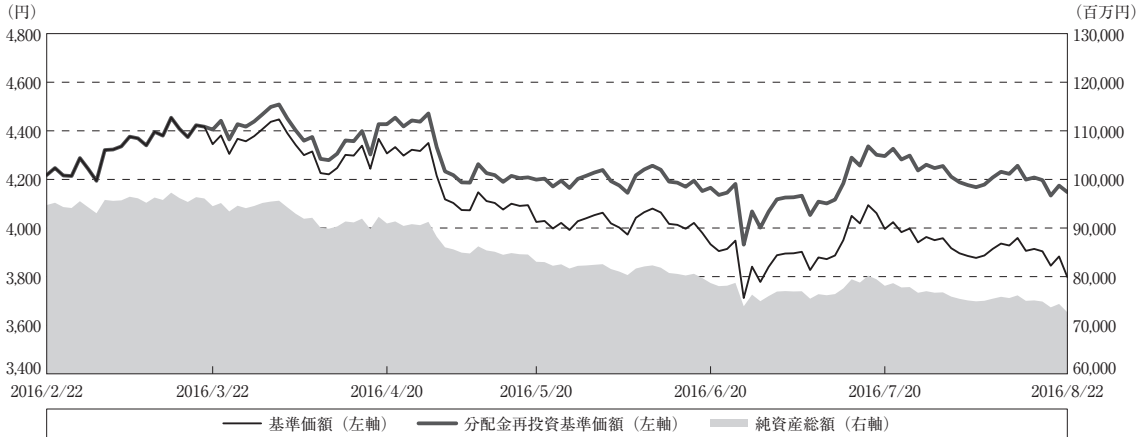
お問い合わせダイヤル：(03)6447-3100
(受付時間：毎営業日の午前9時から午後5時)

ホームページ <http://www.invesco.co.jp/>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2016年2月23日～2016年8月22日）



第156期首：4,218円

第161期末：3,798円（既払分配金（税込み）：360円）

騰落率：△1.7%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2016年2月22日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

[上昇要因]

- ・オーストラリアドル建ての公社債などを実質的な主要投資対象としているため、オーストラリア準備銀行（RBA）を含む世界の中央銀行が緩和的な姿勢を維持したことやインフレが抑制された状態が続いたことを背景に市場金利が低下（債券価格は上昇）したことが、基準価額の上昇要因となりました。

[下落要因]

- ・実質外貨建資産の為替ヘッジを行わなかったため、オーストラリアドルが対円で下落したことが基準価額の下落要因となりました。

1万口当たりの費用明細

（2016年2月23日～2016年8月22日）

項 目	第156期～第161期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 27	% 0.644	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(12)	(0.295)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(13)	(0.322)	購入後の情報提供、運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(1)	(0.027)	ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.005	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(0)	(0.004)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.001)	監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、外国有価証券に係る税金および信託事務の処理に要するその他の費用等
合 計	27	0.649	
作成期間の平均基準価額は、4.132円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

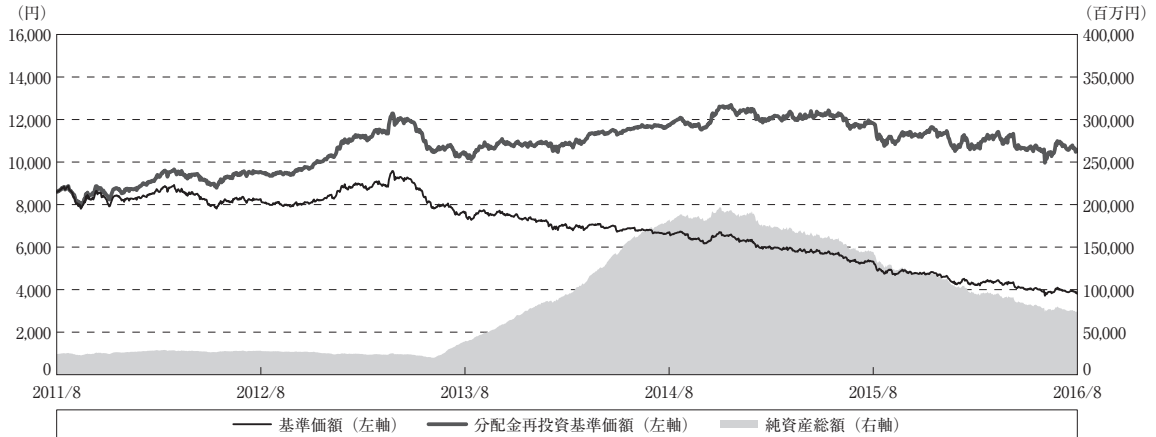
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2011年8月22日～2016年8月22日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかにについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2011年8月22日の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

	2011年8月22日 決算日	2012年8月20日 決算日	2013年8月20日 決算日	2014年8月20日 決算日	2015年8月20日 決算日	2016年8月22日 決算日
基準価額 (円)	8,598	8,120	7,417	6,549	5,205	3,798
期間分配金合計(税込み) (円)	—	1,320	1,440	1,800	1,400	880
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	10.6	8.5	13.8	0.3	△10.8
ブルームバーグオーストラリア国債インデックス (Bloomberg AusBond Treasury 0+ Yr Index) (円換算ベース) 騰落率 (%)	—	11.6	8.5	14.5	1.2	△10.0
純資産総額 (百万円)	24,299	27,746	39,463	179,165	141,142	72,663

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 参考指数は、ブルームバーグオーストラリア国債インデックス (Bloomberg AusBond Treasury 0+ Yr Index) (円換算ベース) です。参考指数の詳細は11ページをご参照ください。
- (注) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しているものです。

投資環境

（2016年2月23日～2016年8月22日）

＜オーストラリア国債利回り＞

2年 1.45%（前作成期末1.84%） 5年 1.54%（同1.99%） 10年 1.91%（同2.45%）

＜対円為替レート＞

オーストラリアドル／円 76円43銭（前作成期末80円77銭）

※上記は当作成期末の数値です。

＜債券市場＞

当作成期のオーストラリア金利を5年国債利回りの動きで見ると、2016年3月は米国の政策金利の引き上げ見通しが年4回から年2回に引き下げられたことで金利が低下（債券価格が上昇）する局面もあったものの、①米国経済指標が改善したこと、②株価や原油価格が上昇したことなどを背景に金利は上昇（債券価格は下落）しました。5月に入るとRBAは政策金利を0.25%引き下げ1.75%とし、また2016年のインフレ率の見通しを大幅に引き下げたため追加緩和に対する期待が高まり、金利低下が加速しました。6月には米国の雇用統計が市場予想を大幅に下回ったことをきっかけに同国の利上げ期待が後退、また下旬に英国で行われた欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票が大方の市場予想に反しEU離脱派の勝利に終わると、先行き不透明感の高まりを背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり、安全資産とされる債券が買われ金利がさらに低下しました。その後も、海外市場の金利低下傾向や国内の消費者物価指数（CPI）の落ち着きなどを背景に金利低下基調が続く中、作成期末を迎えました。

＜為替市場＞

当作成期のオーストラリアドルは対円で下落しました。2016年3月は株価や原油価格が上昇に転じたことなどを背景にオーストラリアドルは対円で上昇しました。4月も底堅い値動きとなっていました。2016年1～3月期のCPIが市場予想を大幅に下回る伸びとなったことに加え、月末に日本銀行が金融政策を据え置いたことをきっかけに円がオーストラリアドルに対し急速に上昇しました。その後も英国のEU離脱を問う国民投票の結果を受け円高が進行しましたが、7月に入ると米国で経済指標が改善し利上げ期待が高まったことや英国で新首相が決まり経済の先行き不透明感が若干後退したことなどを背景に、オーストラリアドルは対円で上昇しました。しかし、月末に発表された日本銀行の追加緩和の内容が市場期待を下回るものとなったことが明らかになると円が主要通貨に対し急伸、円高／オーストラリアドル安基調を保ったまま作成期末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

（2016年2月23日～2016年8月22日）

主として、インベスコ オーストラリア債券 マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）に投資を行い、マザーファンドを通じて、オーストラリア建ての公社債などに投資を行いました。また、実質外貨建資産の投資にあたっては、為替ヘッジは行いませんでした。

マザーファンドでは、ファンダメンタルズ分析とモデルに基づくクオンツ分析を併用して経済と市場価格の関係の調査・分析を行い、オーストラリアの金利水準や市況動向、信用格付などを総合的に勘案して投資銘柄を選定し、ポートフォリオを構築しました。

デュレーション戦略では、作成期初から参考指数より長期化していましたが、2016年3月に参考指数と同水準としました。その後は参考指数並みの水準を維持していましたが、RBAが2016年のインフレ率の見通しを引き下げたことから追加緩和に対する期待が高まる可能性が高いと判断し、5月中旬に参考指数より長期化しました。その後もデュレーション調整を繰り返しながらも長期化した状態を維持しましたが、7月下旬に利益確定を行い、今度は参考指数より短期化としました。信用格付けについては、作成期を通じてAAA格、AA格など信用格付けの高い債券を中心に運用を行いました。種別配分では社債、地方債の組み入れを機動的に変化させながら非国債に対する投資を維持しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2016年2月23日～2016年8月22日）

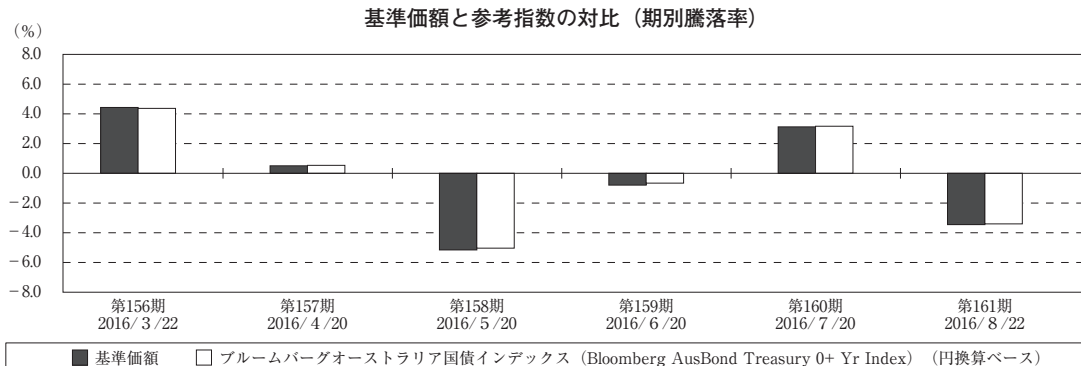
当作成期の分配金再投資基準価額騰落率は△1.7%となり、参考指数であるブルームバーグオーストラリア国債インデックス（Bloomberg AusBond Treasury 0+ Yr Index）（円換算ベース）の騰落率△1.3%を下回る結果となりました。

【プラス要因】

- ・2016年5月中旬から7月下旬にかけてファンドのデュレーションを参考指数より長期化としていましたが、金利が低下傾向となったことがプラスに寄与しました。

【マイナス要因】

- ・ファンドでは社債や地方債などの非国債の組み入れを継続しました。2016年6月以降地方債のクレジットプレッドが拡大傾向となったことがファンドの収益に対しマイナスに影響しました。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

（注）参考指数は、ブルームバーグオーストラリア国債インデックス（Bloomberg AusBond Treasury 0+ Yr Index）（円換算ベース）です。参考指数の詳細は11ページをご参照ください。

分配金

（2016年2月23日～2016年8月22日）

収益分配金につきましては、基準価額水準および市況動向などを勘案し、第156期～第161期は1万円当たり60円（すべて税込み）とさせていただきます。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万円当たり、税込み）

項 目	第156期	第157期	第158期	第159期	第160期	第161期
	2016年2月23日 ～2016年3月22日	2016年3月23日 ～2016年4月20日	2016年4月21日 ～2016年5月20日	2016年5月21日 ～2016年6月20日	2016年6月21日 ～2016年7月20日	2016年7月21日 ～2016年8月22日
当期分配金	60	60	60	60	60	60
（対基準価額比率）	1.362%	1.374%	1.469%	1.503%	1.479%	1.555%
当期の収益	10	10	5	5	10	5
当期の収益以外	50	50	55	55	50	55
翌期繰越分配対象額	1,257	1,208	1,156	1,104	1,054	1,001

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

オーストラリア経済は設備投資の落ち込みが顕著になっている一方で、雇用情勢の回復を背景に個人消費など底堅く推移している需要項目もあります。インフレについては極めて低い状態が続いており、労働コストが抑制されていることや、世界各地のインフレ圧力が極めて弱い状態が続いていることから当面は抑制された状態が継続する可能性が高いと考えられます。このような環境下、RBAは2016年8月の金融政策決定会合で、大方の市場予想通り政策金利を0.25%引き下げ、過去最低の1.50%とすることを決定しました。現在の抑制されたインフレの状況を勘案すると引き続き追加緩和の余地は残されていると考えられるものの、当面は8月の利下げの効果や金融市場の動向、インフレの状況を注視することが予想されます。

為替市場ではオーストラリアが追加緩和に踏み切ったことに加え、日本銀行による金融緩和政策の先行きに不透明感が生じたことなどを背景に、オーストラリアドルが対円で軟調な展開となりました。オーストラリアでは追加緩和期待が残るものの、当面は政策金利が据え置かれる可能性が高く、オーストラリアドルが継続的に対円で下落する可能性は高くないと考えています。

こうした投資環境下、当ファンドでは主としてマザーファンドに投資を行い、マザーファンドを通じてオーストラリアドル建ての公社債などに投資を行います。また、実質外貨建資産の投資にあたっては、原則として為替ヘッジは行わない方針です。

マザーファンドでは、ファンダメンタルズ分析とモデルに基づくクオンツ分析を併用して経済と市場価格の関係の調査・分析を行い、オーストラリアの金利水準や市況動向、信用格付などを総合的に勘案して投資銘柄を選定し、ポートフォリオを構築します。

お知らせ

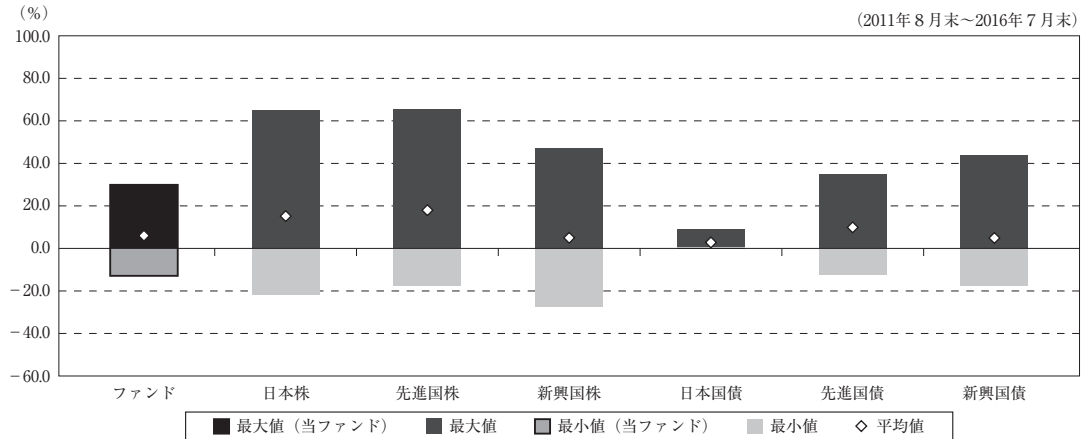
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「インベスコ オーストラリア債券 マザーファンド」受益証券を主要投資対象とし、中長期的に安定した収益の確保および投資信託財産の着実な成長を図ることを目標に運用を行います。 ・実質外貨建資産の投資に当たっては、原則として為替ヘッジを行いません。 	
主要投資対象	インベスコ オーストラリア 債券ファンド (毎月決算型)	「インベスコ オーストラリア債券 マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	インベスコ オーストラリア債券 マザーファンド	豪ドル建ての公社債等を主要投資対象とします。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・主として、マザーファンド受益証券への投資を通じて、豪ドル建ての公社債などに投資を行います。 ・オーストラリアの金利水準や市況動向、信用格付などを総合的に勘案して投資銘柄を選定します。 ・運用に当たっては、経済と市場価格の関係を調査・分析し意思決定を行うアクティブ運用を行います。調査・分析は、ファンダメンタルズ分析とモデルに基づくクオンツ分析を併用します。 	
分配方針	原則として毎月の決算時（毎月20日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。 ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないことがあります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：％)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	6.0	15.2	18.0	5.0	2.8	9.9	4.9
最大値	29.9	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	-12.9	-22.0	-17.5	-27.4	0.4	-12.3	-17.4

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年8月から2016年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P11の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2016年8月22日現在)

○組入上位ファンド

銘柄名	第161期末
インベスコ オーストラリア債券 マザーファンド	101.9%
組入銘柄数	1銘柄

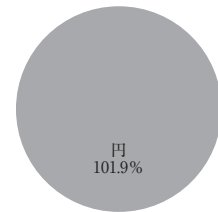
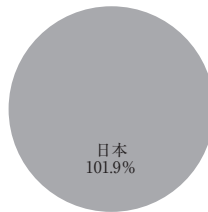
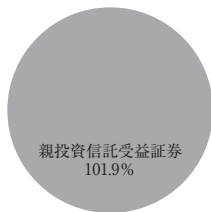
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

○資産別配分

○国別配分

○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては、発行体の国籍（所在国）などを表示しております。

純資産等

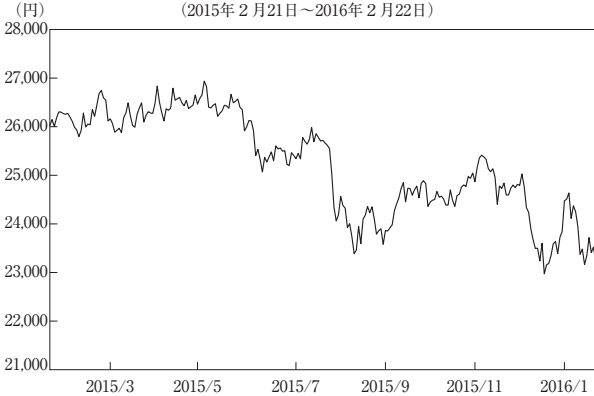
項目	第156期末	第157期末	第158期末	第159期末	第160期末	第161期末
	2016年3月22日	2016年4月20日	2016年5月20日	2016年6月20日	2016年7月20日	2016年8月22日
純資産総額	94,493,092,515円	90,938,847,343円	83,052,289,862円	78,682,697,633円	78,108,129,272円	72,663,185,045円
受益権総口数	217,472,977,492口	211,156,102,784口	206,335,144,456口	200,067,789,311口	195,466,928,941口	191,301,146,024口
1万円当たり基準価額	4,345円	4,307円	4,025円	3,933円	3,996円	3,798円

* 作成期間（第156期～第161期）中における追加設定元本額は7,723,737,073円、同解約元本額は41,011,483,817円です。

組入上位ファンドの概要

インベスコ オーストラリア債券 マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2015年2月21日～2016年2月22日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用)	3円 (3)	0.012% (0.012)
合計	3	0.012

期中の平均基準価額は、25,350円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

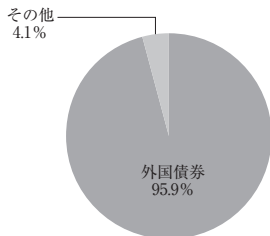
【組入上位10銘柄】

(2016年2月22日現在)

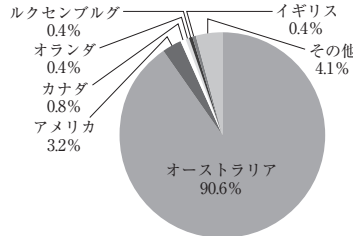
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 クイーンズランド州債 3.25% 2026/7/21	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	6.4%
2 ニューサウス・ウェールズ州債 float 2025/11/20	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	6.2%
3 ビクトリア州債 4.25% 2032/12/20	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	5.7%
4 ニューサウス・ウェールズ州債 float 2020/11/20	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	5.7%
5 オーストラリア国債 5.25% 2019/3/15	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	5.3%
6 オーストラリア国債 5.75% 2021/5/15	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	5.0%
7 オーストラリア国債 4.25% 2026/4/21	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	4.9%
8 オーストラリア国債 float 2018/11/21	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	4.5%
9 オーストラリア国債 4.5% 2033/4/21	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	4.0%
10 オーストラリア国債 6.0% 2017/2/15	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	3.5%
組入銘柄数			50銘柄	

- (注) 比率は純資産総額に対する割合です。
- (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。
- (注) 国(地域)につきましては、発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

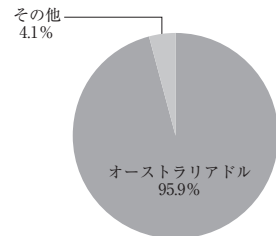
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 比率は純資産総額に対する割合です。
 - (注) 国別配分につきましては、発行体の国籍(所在国)などを表示しております。
 - (注) その他には現金等を含む場合があります。
- ※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

＜当ファンドの参考指数について＞

当ファンドはベンチマークを定めていないため、参考指数としてブルームバーグオーストラリア国債インデックス（Bloomberg AusBond Treasury 0+ Yr Index）（円換算ベース）を掲載しています。当該参考指数は、計算日の前営業日のブルームバーグオーストラリア国債インデックス（Bloomberg AusBond Treasury 0+ Yr Index）（オーストラリアドルベース）に計算日のオーストラリアドル為替レート（対顧客電信売買相場仲値）を乗じ、設定日を10,000として、当社で独自に指数化したものです。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

○TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

TOPIXは、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄の株価を対象として算出した指数です。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

○MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。なお、円ベース指数については、委託会社がMSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

○NOMURA - BPI国債

NOMURA - BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数で、著作権、商標権、知的財産権、その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイドは、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。円ベース指数については、委託会社がJPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.